

平成21年度 園芸特産業関係功労者表彰受賞者功績概要

(敬称略)

今井 満行（下諏訪町）

昭和20年代後半に下諏訪町において、冷涼な気候を活かして花き生産をいち早く開始し、以降、特にシンテッポウユリ、リンドウ生産の先駆けとなり、同町における花き産地の形成に尽力された。また、花きの品種育成に取り組み、形質の揃ったシンテッポウユリのF1品種「今井」、及びリンドウの極晩生品種「晩信濃（おくしなの）」を育成された。これらは主力品種として生産拡大が図られ、特に「晩信濃」は県内に広く普及し、長野県産リンドウの長期出荷体系の確立に大きく貢献された。

農事組合法人 いなアグリバレー（伊那市）

上伊那地域のトルコギキョウ生産の主力である抑制作型に適し、市場性の高いオリジナル品種を30種類以上開発・育成し、地域におけるトルコギキョウの生産振興と生産農家の経営安定に尽力された。また、種子冷蔵や冷房育苗の先進的な技術を駆使して、揃いと品質の良いセル成形苗を安定的に供給する体制を確立し、トルコギキョウの抑制作型における高品質生産に大きく貢献された。なお、抑制作型は本県の冷涼な気候を活かして、今後拡大を推進する作型であり、上伊那地域の先駆けた取り組みに貢献された法人の功績は顕著である。

恩澤 博司（天龍村）

明治20年頃から天龍村内で地域野菜として栽培されていた「ていざなす」について、昭和の初め頃（父親の代）から、交雑の危険の少ないほ場において形質を損なうことなく、長年にわたり採種を続け、当該品種の維持継承に尽力された。また、村内への苗供給を一手に行うとともに、発芽改善、堆肥使用、支柱立て、整枝等栽培技術の改良・確立に取り組み、生産安定に大きく貢献された。なお、当村においては、「天龍村ていざなす生産者組合」の設立、信州の伝統野菜の伝承地栽培認定、さらには「ていざなす」の登録商標の取得など、村を挙げての生産振興・地域活性化に係る取り組みへと発展している。

中田 幸平（木曾町）

昭和32年以降、はくさい生産中心の経営を展開する中で、昭和40年代に激発した連作障害（ハクサイ根くびれ病）に対する土壌消毒技術、及び作柄安定・品質向上に大きな効果のあるマルチ栽培をいち早く取り入れて普及を図り、はくさいの高品質・安定生産に尽力された。また、旧開田村内の集出荷場の統合と併せて、予冷施設の設置に中心的な役割を果たすとともに、木曾郡野菜生産部会の要職にあつて、検査員制度の導入と出荷規格の統一による品質の高位平準化、「御岳はくさい」の登録商標の取得などに 尽力され、全国レベルの銘柄確立に大きく貢献された。